

命を守る基礎建設業へ

ジャパンパイル 創業100年で式典



黒瀬社長

ジャパンパイル（黒瀬晃社長）は11月21日、東京・虎ノ門のオークラ東京で創業100周年記念式典を開いた。販売代理店、基礎専門工事業者、主要パイルメーカーの関係者ら700人以上が出席し、100年の節目を祝った。

記念式典の冒頭であいさつした黒瀬社長は同社の成り立ちについて「ちょうど100年前の1923年4月、



不死原社長

武智正次郎が当社の前身の一つである武智工務所（旧ジオトップ）を大阪市内に設立した。武智が創業してわずか半年後に関東大震災があり、『関東の悲惨な状況を防ぎ、命を守る基礎を実現したい』という思いを強くしたことは想像に難くない。そんな武智の運命を変えたのはそれから2年後のこと。武智杭と呼ばれる鉄筋コンクリート製の節杭を完成させた。節杭が後に世界各国の特許として認められ、世界の安全に貢献してきた。節杭の開発から70年後の1995年、阪神淡路大震

災が発生し、多くの建物が全壊、半壊したが、人々の安全を守る避難場所の多くで当社の節杭が使われていたと述べ、創業者の思いが長い時を超えて多くの人々の命を守ったと強調した。その後、安全な基礎建設を目指したいという志のもと、2005年に大同コンクリート工業、ヨーコンの3社でジャパンパイルがスタートしたと説明。

「大同コンクリート工業は原安三郎が1934年に静岡県沼津市で創業し、コンクリート杭工事を得意としてきた。ヨーコンは1958年に新谷泰助が創業し、コンクリート杭と場所打ち杭の二刀流で活躍してきた」と紹介した。

さらに、「08年には1955年に石井寅蔵が創業した基礎工業が合流し、あらゆる杭工事に対応できる体制が整った。お客様から最も安全で費用対効果の高い基礎とは何かという質問に対し、自信を持って答えられるのはこの体制があるからだ」と述べ、現在は業界全体に貢献するための活動を行っている」と説明した。

また、現在では一般的となった高支持力杭工法のHyperMEGAを他社にも利用できるような技術供与を行い、業界の発展に努めてきた。これらをもとに「命を守る基礎を

実現したいという志を、100年前にジオトップ、89年前に大同コンクリート工業、65年前にヨーコン、68年前に基礎工業がそれぞれ誓った。現在、ジャパンパイルという同じ旗のもと、この志をさらに伸ばすため懸命に取り組んでいる」と話し、命を守る基礎建設

の発展に努めると語った。また、太平洋セメントの不死原正文社長と三井住友銀行の中島達副頭取がそれぞれ来賓あいさつをした。不死原社長は「ジャパンパイルとの取引は大きな12年に設立された前身の武智工務所以来で、現在も日本全国で取引

している。さらに現在にはジャパンパイルの親会社である「アジアパイルホールディングスの子会社であるベトナム・ファンフー社には、当社のベトナム子会社のギンセンメントがセメントを供給している」と述べ、日本国内だけでなく、海外でも両社は協力関係にあると紹介。「総合基礎建設業界のリーダーとして、我々の社会に安心を与え、経済活動ができるようにする業界だ。改めて日本の基幹産業として重要であることを

認識している。そうした企業とパートナーを組んでこれたことはうれしく思う」と語り、引き続き200年、300年企業を目指し、共に歩んでいきたいとした。式典では特別講演として喃家の春風亭小朝さんが登壇し、一席披露した。